

競 技 注 意 事 項

- 1 本大会は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則、日本マスタース陸上競技連合競技規則・競技細則および本大会規定によって実施する。

2 参加受付について

参加選手は、下記の時間帯に大会会場の選手受付場所でアスリートビブス、ADカード等を受け取ること。

10月 9日（金）	大会前日	13：00～16：00
10月10日（土）	大会第1日目	8：00～16：00
10月11日（日）	大会第2日目	8：00～16：00
10月12日（月）	大会第3日目	8：00～14：00

3 招集について

- (1) 招集場所は、陸上競技場第2ゲート（1500mスタート地点）付近に設ける。
(2) 招集開始時刻を点呼開始時刻、招集完了時刻を移動開始時刻とし、招集時刻は競技時刻を基準に、下記のとおりとする。

	招集開始時間	招集完了時間
トラック競技	競技開始 30分前	競技開始 20分前
フィールド競技（走高跳・投てき種目）	競技開始 40分前	競技開始 30分前
フィールド競技（走幅跳・三段跳）	競技開始 50分前	競技開始 40分前
フィールド競技（棒高跳）	競技開始 60分前	競技開始 50分前

※棒高跳の招集は、当該競技場所で行う。点呼終了後から、順次練習ができる。

公式練習は、当該競技役員の指示により行うこと。

- (3) リレー競技に出場するチームは、招集所（競技者係）でオーダー用紙を受け取り、第1組招集完了時刻1時間前までにオーダーを記入し、競技者係に提出すること。オーダー用紙提出後の内容変更は、主催者が任命した医務員あるいは総務の判断がなければ認められない。
- (4) 招集の手順
- ① 競技者は、出場種目の招集開始時刻までに招集所で待機し、アスリートビブス・競技用靴・衣類持ち物等の商標の点検を受け、点呼を受ける。携帯電話などの電子機器を持ち込むことはできない。また招集所へは、当該種目競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ② 代理人による点呼は認めない。ただし2種目以上を同時に兼ねて出場する競技者は、事前に「2種目同時出場届」を本人または代理人が競技者係（招集所）に提出すること。
 - ③ 招集完了時刻までに所定の手続きをせず、また点呼を受けない競技者は、当該種目を棄権したものとみなす。
 - ④ 点呼を終了した競技者は、指定された場所で待機し、競技者係員の誘導に従って、スタート地点またはピットに移動する。
 - ⑤ 出場種目を欠場する場合は、招集所で『欠場届』を受け取り、招集開始時刻までに競技者係（招集所）に『欠場届』を提出すること。

4 練習について

※ すべての競技場で、危険防止のため、投てき競技用具を使用した投てき練習はできない。

- (1) 練習は、指定された練習場所・日程を＜練習会場日程＞で確認して実施すること。
(2) 競技場および練習会場での練習は、競技役員の指示により安全に留意して行うこと。
(3) 練習時間・練習場所については、天候の状況によって変更や制限をする場合がある。
(4) 雨天練習場は、晴雨に関係なく開放する。
(5) 各練習場所の開場時刻は、
第1日目＜10月10日（土）＞・・・ 7：30
第2日目＜10月11日（日）＞・・・ 7：30
第3日目＜10月12日（月）＞・・・ 7：30

※施設開錠の順番により、開場時刻は前後することがある。

5 競技について

- (1) 競技者の出場する競技種目の変更・追加は一切認めない。
- (2) 年齢に不正があった場合は、失格となる。
- (3) 当該種目出場の競技者以外は、競技場内に立ち入ることはできない。
- (4) 競技用靴について

スパイクピンは11本以内、9mm以下、走高跳およびやり投の場合は12mm以下とする。
靴底厚さはスパイクシューズ、ノンスパイクシューズとも20mm以下とする。ただし競歩競技は40mm以下とする。

- (5) 競技者は、携帯電話・スマートフォン・音楽プレイヤー・カメラなどの機器を競技場内に持ち込むことはできない。

(6) トラック競技について

- ① 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- ② スタートについては、1度の不正スタートでその責任を有する競技者は失格とする。
- ③ 400mまでのレースにはスターティングブロックを使用する。ただし、80歳以上のクラスではスタンディングスタートをすることができる。
- ④ 同クラスが複数組の場合、すべてタイムレースとする。
- ⑤ リレーについては、チームの代表者は、リレーオーダー用紙に必要事項を記入し、招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出する。
リレー登録者以外の競技者を走者とする場合、変更は本大会参加者より2名以内とする。なお、高年齢者が低年齢者のクラスの走者として出場することができる。
ただし、個人種目にエントリーしていない競技者が出場することはできない。
- ⑥ 男女4×100mRの第2・第3・第4走者は、主催者が用意するマーカー（粘着テープを1ヶ所）を使用する。マーカーは、各中継地点で出発係から配布したものを受け取り使用すること。そのマーカー以外は使用してはならない。なお、使用したマーカーは競技終了後、各自で回収すること。
- ⑦ 男女4×400mRの第3・第4走者はのバトンの受け渡しは、コーナートップ順に内側より並ぶこと、コーナートップとは、第3コーナー内側に示された黄色旗を通過した時点のことである。この後は、並んだ順位を変えてはならない。
なお、次走者は、テークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。
- ⑧ リレー競技に出場するチームは、同一デザインのユニフォームを着用すること。
- ⑨ 次の種目には時間制限を設ける。この時間が過ぎた場合は次の周回に入ることができない。
800mと1500mについては、進行に著しく支障のある場合に競技の中止を命ずることがある。

3000m	M60～M90	18分	W50～W80	18分
5000m	M-24～M55	20分	W-24～W45	21分
2000mSC	M60～M80	11分	W-24～W75	11分
3000mSC	M-24～M55	13分		
3000mW	M60～M90	25分	W-24～W80	25分
5000mW	M-24～M55	35分		

(7) フィールド競技について

- ① 試技順は、全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中、他の種目に出場する競技者は、当該種目の審判主任に申し出る。その場合、トラック競技を優先し、フィールド競技については、本人の希望による。
 - ② 各クラスのトップ8（同記録の競技者が複数ある場合はすべて）を決めるまでは3回試技とする。トップ8による4回以降の試技数1回とする。その際、試技順は変更しない。
- (8) ハードル競技および障害物競技の種目使用基準、投てき用具の重量基準、走高跳および棒高跳のバーの上げ方基準、跳躍競技の踏切位置は別表のとおりとする。

6 順位決定について

(1) トラック競技

同組で着差がない、または組が異なる場合は、生年月日の早い競技者を上位とする。

(2) 跳躍競技

① 走高跳、棒高跳で最高位が同記録の場合、ジャンプオフは実施しない。その場合、無効試技数の回数で順位を決める。それでも決まらない場合は、生年月日の早い競技者を上位とする。

② 走幅跳、三段跳で同記録の場合は、2番目の記録で順位を決める。それでも決まらない場合は3番目の記録とし、以下同様に決める。それでも決まらない場合は、生年月日の早い競技者を上位とする。

(3) 投てき競技

同記録の場合は、2番目の記録で順位を決める。それでも決まらない場合は3番目の記録とし、以下同様に決める。それでも決まらない場合は、生年月日の早い競技者を上位とする。

7 アスリートビブスについて

(1) アスリートビブスは、競技者受付にて、1人につき、2枚交付する。

(2) 競技者は、交付されたアスリートビブスを、胸部と背部にそのままの状態につけ、安全ピンで四隅を止める。

(3) 跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。

(4) トラック競技に出場する競技者は、配布された「腰ナンバー標識」を右腰やや後方に貼り付けること。

(5) 3000m以上の種目と4×400mRの第2走者・第3走者は、別アスリートビブスを使用する。別アスリートビブスは招集所で配布する。

8 レーン順・試技順

トラック競技のレーン順およびフィールド競技の試技順は、プログラム記載の番号順とする。

9 競技用具について

(1) 用器具の持ち込みは認めない。。ただし、棒高跳用ポールは各自持参とするが、ポールの検査は最終点呼時に当該審判員が行う。

(2) 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいない。

10 表彰について

競技終了後、1位～6位までに入賞した競技者は中央エントランスにて表彰を行う。

1位～3位 賞状、メダル

4位～6位 賞状

11 事故防止

(1) 大会期間中すべての競技者は、競技役員（セイフティジャッジおよび他の競技役員）から、「競技への出場または競技の続行が棄権」と判定された場合は、その時点で競技出場および競技続行はできない。

(2) 競技者は、セイフティジャッジおよび競技役員の指示に従わなければならない。

(3) 判定に従わず、競技に出場または続行した場合の記録・順位は認められない。

12 異議申立て（抗議と上訴について 日本陸上競技連盟競技規則TR8の規定による）

(1) 競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、その種目の結果が正式発表（大型映像表示終了時刻を基準とする）されてから30分以内に抗議者（競技者自身または代理人あるいはチームを公式に代表する者）は、抗議担当総務員（メイン競技場 第1会議室）に申し出て、当該審判長に対して口頭でなされなければならない。

(2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合は、抗議者は、預託金20000円を添えて「上訴申立書」を抗議担当総務員を通してジュリーに提出しなければならない。

なお、「上訴申立書」の提出時刻は、審判長による裁定から30分以内とする。

また、ジュリーの裁定後に新たな変更可能な決定的証拠が提示された場合は、裁定を再考してもよいが、それ以外の場合では、ジュリーの裁定に従わなければならない。

13 競技者の入退場について

- (1) トラック競技の競技者の入退場は、マーシャルの指示に従うこと。
- (2) フィールド競技の競技者は、当該競技役員およびマーシャルの指示に従って入退場する。
- (3) トラック競技の入賞者はマーシャルが、フィールド競技の入賞者は当該競技役員が表彰者控所に誘導する。

【入退場場所】

場 所	種 目
第1ゲート	400m、800m、1500m、3000m、 5000m、300mH、400mH、2000mSC 3000mSC、3000mW、5000mW 4×100mR（第1走）、4×400mR（全走者）
第2ゲート	4×100mR（第2走）、棒高跳、投てき全種目
第3ゲート	4×100mR（第3走）、走高跳
第4ゲート	走幅跳、三段跳
北エントランス	60m、100m、200m、80mH、100mH 110mH、200mH、4×100mR（第4走）

14 その他

- (1) 競技中に発生した負傷および疾病については、主催者においてメインスタンド下医務室にて応急処置を行うが、それ以降の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。
競技者および競技役員は傷害保険に加入している。
- (2) 記録速報は日本マスタースWebサイト、愛媛陸協速報サイト、愛媛マスタースサイトで確認すること。
- (3) 記録証は日本マスタースWebサイトマイページから後日ダウンロードすること。
- (4) 所持品類（貴重品を含む）は、各自で管理すること。
- (5) ゴミ類は、すべて各自の責任で持ち帰ること。
- (6) 届けられた遺失物は、TICで保管する。保管期間は、10月12日の競技会終了までとする。
- (7) 大会本部、競技役員控室およびその付近には、大会関係役員以外は立ち入りを禁止する。
- (8) 更衣室の利用は短時間とし、更衣室に荷物を置いたままにしないこと。
- (9) 迷惑行為および盗撮等は犯罪であるので、発見した場合は速やかに本部役員（メインスタンド下第1会議室）まで連絡すること。

15 提出書類

提出書類は以下のとおり。競技者係またはTICで受け取る。

各書類を提出時刻までに所定の提出先に提出する。

書類の種類	提 出 先	提 出 時 刻
欠場届	招集所（競技者係）	招集開始時刻まで
2種目同時出場届	招集所（競技者係）	第1種目の招集開始時刻まで
リレーオーダー用紙	招集所（競技者係）	当該組の招集完了時刻の1時間前まで
棒高跳アップライト申告書	招集所（競技者係）	招集開始時刻に
抗議申立（口頭）	TIC	競技注意事項参照
上訴申立書	TIC	競技注意事項参照